

# ～体育館争奪戦！？～ 解説

## ■ 解説のポイント

- 1 ルールってどうして必要なの？ - 「法」に対する肯定的・動的・主体的認識 - ※
- 2 ルールってどうやって決めるの？ - 紛争解決の手段（対立と合意） -
- 3 もめごとの状況を整理しよう！ - 紛争解決の技能（問題の整理） -
- 4 討論の開始！ - 紛争解決の技能（意見を聴き、意見を伝える） -
- 5 生徒会案は「効率」的かな？ - 紛争解決の基準（効率） -
- 6 生徒会案は「平等（公正）」かな？ - 紛争解決の基準（平等） -



## コトバの解説

「法」に対する肯定的・動的・主体的認識とは？



「法」に対する肯定的・動的・主体的認識とはどのような意味の言葉ですか？

この解説では、①「法」に対する肯定的認識、②「法」に対する動的・主体的認識について、以下の意味で使用しています。



### ① 「法」に対する肯定的認識

「法」があることで、幸福・豊かに暮らせること

### ② 「法」に対する動的・主体的認識

「法」は自ら作り、作り変えることができること



そのほかにも分かりにくい言葉・表現などありましたら、日本弁護士連合会にお問い合わせください。



「体育館争奪戦!？」の1ページ目（はじめに、体育館について、部活動の練習時間について）を読んでみましょう。

〈「体育館争奪戦!？」の1ページ目を読む時間を設ける〉



今年の4月から、バレーボール部・バスケットボール部・卓球部・フットサル部は、どうやって活動場所を決めていますか？



早い者勝ちで決めています！



そうですね。早い者勝ちでは、「トラブル」になっているようですが、どんなことがトラブルになっていると思いますか？



先に場所をとった部活が練習できることになるから、部活の前の授業を落ち着いて受けられなくなるんじゃないかな。



場所取りのために、廊下を走る人がいるととっても危ないね。



どっちが早かったかで喧嘩になったり、場所を取れなかった部活が無理やり割り込んで活動を始めてしまったりするかも…。



割り込みがあると、ボールが飛び交ったり、身体がぶつかったりして危ないね。



みなさんの意見の通り、早い者勝ちだと、いろいろなトラブルが考えられますね。このようなトラブルが起きないようにするためには、どうしたらいいのでしょうか？



ルールを決めるのがいいと思います！



素晴らしいことに気が付きましたね。みなさんの身の回りにもいろいろなルールがありますね。学校生活では、校則が身近なルールといえますね。みなさんは、ルールについて、どんな印象を持っていますか？”堅苦しいもの””自由を奪うもの”という印象があるかもしれませんね。でも、本当は、ルールがあることで、みんなが幸せに、豊かに暮らせるようになるんです。

「法」に対する肯定的認識を育もう！



例えば、法律もルールの1つです。

道路交通法という法律では車は左側通行をしなければならないと決めていて、そのおかげで交通事故が起きるのを防いでいます。

体育館の練習時間も同じで、ルールが決まっていれば、毎日の授業が終わるたびに場所取りのためにみんなで廊下を走る必要はなくなりますし、練習中の事故も防げますね。



そしてもう1つ、ルールについて、大切なことがあります。それは、ルールはただ誰かに与えられるだけのものではなく、必要になったら自分たちで作ったり変えたりすることができるものということです。

今回は、フットサル部が新しくできるという出来事が起きたので、これまでとは事情が変わりましたね。

このように、前のルールのとくと事情が変わったときは、これまでのルールを変えて新しいルールを作る必要性が生まれたということになりますね。

「法」に対する動的・主体的認識を育もう！



ところで、ルールはどのように決めたらいいと思いますか？



顧問の先生や校長先生に決めてもらえばいいと思います！



もし先生が決めたら、実績のあるバレーボール部だけ毎日練習場所を確保できて、実績のないフットサル部はぜんぜん練習できなくなってしまうかもしれませんよ。それでも、みんなそのルールに納得するのでしょうか？



先生が勝手に決めたルールだと納得できないと思います。



バレーボール部・バスケットボール部・卓球部・フットサル部のみんなで話し合っ  
て決まったルールなら、みんな納得できると思う！



どうして先生が決めたらダメで、みんなで話し合っ  
て決めると、みんなが納得でき  
ると思いますか？



自分の意見が言えるからじゃないかな。



そうですね。  
自分の関係ないところで勝手に決められて、悪い結果だけ押しつけられたら、そ  
んなルールはとても納得できないですね。そのため、何かを決めるときには、  
結果に利害関係を持つ関係者全員が手続きに参加して、十分に話し合うという手  
続がとても大切です。

社会科公民的分野学習指導要領にいう手続の「公正」＝「手続的正義」です



そして、そのような手続を尽くした公正な話し合いの結果、合意がまとまれば、  
みんなの意見の対立も解消されて、紛争（トラブル）は解決されますね。  
そのため、話し合いによる合意、つまりルール作りは、紛争解決の方法としても  
とても重要な意味を持っているんです。

社会科公民的分野の学習指導要領にいう「対立と合意」です



それでは、体育館の使い方については、体育館の使い方に利害関係を持つ、バ  
レーボール部・バスケットボール部・卓球部・フットサル部のみんなの話し合い  
で決めるということでもいいのでしょうか？



はい！



ここからは、みなさんに各部活と生徒会の代表になりきってもらい、実際にルール作りに挑戦してもらいます。

まず、生徒会・バレーボール部・バスケットボール部・卓球部・フットサル部の5つの役割について、誰がどれを担当するか決めましょう。

〈グループで役割を決める時間を設ける〉



役割りが決まったグループは、「体育館を使用する部活について」の部分について、各部活の担当者がその部の部分を、バレーボール部から順番に声に出して読んでみましょう。

〈グループで、担当者が各部の説明を読み上げる〉



では、早速話し合いを始めましょうと言いたいところですが、まず話し合いをするときのコツを伝授します。

話し合いをするときのコツは、最初にもめごとの状況について整理しておくことです。

一般的な問題の整理の方法としては、

①人間関係、②利害状況、③出来事を時系列でまとめる等が考えられます



いきなり話し合いをしても、どんな意見を言ったらいいかわからなかったり、相手の意見が理解できなかつたりして、的を射た話し合いができないことが多いと思います。

そこで今回は、話し合いを始める前に、それぞれの部活の強くアピールできるポイント（強いポイント）と、強くアピールできないポイント（弱いポイント）をまとめていきましょう。

みなさん、ワークシート1を出して、まずは自分の担当の部の強いポイントと、弱いポイントをまとめてみましょう。もし時間が余ったらほかの部活についても、同じようにまとめていきましょう。

生徒会の担当の人と同じようにワークシート1に取り組んでみましょう。

〈ワークシート1に取り組む時間を設ける〉



【バレーボール部のワークシート1 記載例】

強いポイント … 県内屈指の強豪

弱いポイント … 部員が少ない



【バスケットボール部のワークシート1 記載例】

強いポイント … 伝統がある

弱いポイント … 男女ともに部が弱い



【卓球部のワークシート1 記載例】

強いポイント … 有名アイドルが所属している、  
部員がそこそこ多い

弱いポイント … 3年生のエース1人以外強くない、  
今年部員数が急増した



【フットサル部のワークシート1 記載例】

強いポイント … 部員が多い

弱いポイント … 新しくできたばかりの部、  
正式な大会がない



もめごとの状況は、整理できましたか？

それでは次に、今書き込んだワークシート1をヒントにしながら、自分の担当の部活の希望をワークシート2に書いてみましょう。

生徒会の担当の人は、今の段階での生徒会案を考えてください。

それと同時に、他の部活を説得するための説得するための理由を、具体的なポイントを指摘しつつワークシート2の下段に記入しましょう。

〈ワークシート2を記入する時間を設ける〉



みなさん書けましたか？

それでは、それぞれ自分の担当する部活の希望する練習時間を発表しましょう。

〈バレーボール部・バスケットボール部・卓球部・フットサル部の担当者は、希望する練習時間を発表〉



みなさんの希望する練習時間を全部足すと、あと2つくらい体育館が必要になりそうですね。

でも、体育館は1つしかないので、4つの部活で分け合う必要がありますね。それでは、各部活と生徒会で話し合いを始めましょう。

話し合いをするうえで注意すべきことは2つです。

1つは、各部活の担当者は、その部の代表者だということです。代表者ですから、その部の部員のため、できるだけ多くの練習時間を獲得できるように、話し合いに全力で参加しなければなりません。もし話し合いの結果、十分な練習時間を確保できなかつたら、他の部員はがっかりことになりますからね。

ロールプレイを成功させるためのコツです。



もう1つの注意点は、充実した話し合いにするために、自分とは違う他の人の意見もよく聴き、自分の意見は他の人が理解しやすいように上手に伝えるということです。

これが、怒鳴り合いのけんかど、上手な話し合いの違いになります。

それでは、生徒会役の方は、司会をお願いします。

言語活動を充実させよう！

〈体育館の使用方法について、話し合いを行う〉

#### 【生徒会役】

それでは、これから体育館の使用方法の話し合いを始めます。

意見のある人は手を挙げて発言してください。

〈各部が意見を発表し、議論を行う〉



すべての部活の意見はでましたか？

白熱した議論がされていて素晴らしいですね。

各部の意見を発表した後で、生徒会案も発表してみましょう。

## 【生徒会役】

生徒会案を提案します。



さまざまな部活から意見が出ましたが、まとまらないため、4つの部活が同じように練習時間を確保できるようにしました。

このような提案をした理由は、どの部も練習時間を多くほしいという意見が出たため、どの部活にも練習時間を平等にする必要があると考えたからです。

## 【生徒会案（例）】

曜日	場所	時 間		メモ
		16:00	17:00	
月	前半分	バレーボール部	卓球部	
	後半分	バスケットボール部	フットサル部	
	隅	バレーボール部	卓球部	
火	前半分	卓球部	バレーボール部	
	後半分	フットサル部	バスケットボール部	
	隅	バスケットボール部	フットサル部	
水	前半分	バレーボール部	卓球部	
	後半分	バスケットボール部	フットサル部	
	隅	卓球部	バレーボール部	
木	前半分	卓球部	バレーボール部	
	後半分	フットサル部	バスケットボール部	
	隅	フットサル部	バスケットボール部	
金	前半分			
	後半分	(以降、月曜日から木曜日の割り当ての繰り返し)		
	隅			



生徒会から、生徒会案の提案はされましたか？  
みなさんで生徒会案について考えてみましょう。  
みなさんは、生徒会案についてどう思いますか？



たしかに平等だとは思いますが…。



少し視点を変えて考えてみましょう。  
各部の代表の皆さん、生徒会案のルールだと、あとで困ることはありませんか？





例えば、1時間ごとに練習場所を交代するとすると、体育館を使用できる1時間の中で、毎回ネットを張ったり、卓球台を出したり…といった準備をしたうえ、片づけまで終えなければいけなくなってしまいますね。

そうすると、肝心の練習に使える時間は、1時間もとれなくなってしまいますね。



もちろん、準備と片づけのために無駄な時間が生まれたとしても、毎日ボールを使って練習することが大切という考え方もあると思います。

みなさんに気がついて欲しかったのは、ルールを作るときや、ルールを作りかえるときには、そのルールが効率的なものになっているか、つまり、今回の問題でいうと、時間や空間という有限な資源についての配分が無駄のないようになっているかどうか、についても考えを及ぼしたうえで、決める必要があるということです。

社会科公民的分野の学習指導要領にいう「効率」です



みなさんには、「平等」について、もう少し考えてもらいたいと思います。  
みなさん、体育館の半分だけでフットサルの試合はできますか？



体育館の半分では、フットサルの試合はできません。  
フットサルの試合をするためには、バレーボールコート4面分の広さが必要です。



生徒会案だと、フットサル部は試合形式の練習は全然できないことになって  
ね。  
体育館の半分が使えるば、試合形式の練習ができるバレーボール部やバスケット  
ボール部と、体育館全部が使えないと、試合形式の練習ができないフットサル部  
とでは、本当に平等といえるでしょうか？



平等とはいえないかも…。



もちろん、それぞれの提案が平等か平等ではないかについては、みんなで話し  
合って決めていくことです。  
しかし、「平等」ということについて、もっと深く考えてみましょう。  
確かに、同じものは同じように扱うというのが平等ですが、違うものまで同じよ  
うに扱ってしまった場合まで平等って言えるでしょうか？



それは平等とはいえないと思います。



そうですね。  
同じものは同じように扱い、違うものはその違いの程度に応じて違うように扱う  
というのが、平等という考え方です。

社会科公民的分野学習指導要領にいう結果の「公正」の議論を平等を用いて行っています



フットサル部が試合形式の練習を行うためには体育館全部が必要になる、という  
ことは、フットサル部が他の部活と違う個性といえますね。  
そうすると、まずフットサル部の個性が、他の部活と違った扱いをしなければなら  
ないほどの個性なのかという視点から話し合った方がいいかもしれませんね。



同じことは他の部活についても言えることです。例えば、バレーボール部が強い  
とか、バスケットボール部は伝統があるとか、卓球部には有名人がいるとか、ど  
の部にも個性がありますね。



そのような個性について、一つずつ違った扱いをしなければならないほどの個性なのか、という観点から話し合いをしてみましょう。  
 このような考え方が、一人ひとり（一つずつの団体）の個性を大切にするという考え方にもつながりますね。

「個人の尊厳」という考え方です



フットサル部だけ練習形式の試合ができないのは、少しかわいそうだと思うので、他の部活と違った扱いをしてあげた方がいいと思います。



いい指摘をしてくださいましたね。  
 みなさんは、「違う扱い」をするかについて、どのような基準で決めるのがいいと思いますか？



それでは、違う扱いをするか決める基準について、少し考えてみましょう。  
 先ほど、違うものはその違いの程度に応じて違う扱いをするのが平等、と説明しましたね。  
 しかし、何がその違いにあたるかということとはとても難しい問題で、古代ギリシャの時代から多くの哲学者が議論してきました。  
 その結果現在では、「必要性」「貢献度」「能力」の3つの違いに応じて違う扱いをするかどうか決めるというのが定説になっています。

やや難解なので、生徒の反応を見ながら言及するかどうか決めてください



例えば、強くアピールできるポイント・強くアピールできないポイントを「必要性」「貢献度」「能力」の基準で整理すると、このようになります

		必要性	貢献度	能力
部員の人数	多い	高い		
	少ない	低い		
伝統	ある		高い	
	ない		低い	
有名人	いる		高い	
	いない		低い	
正式な大会	ある	高い	高い	
	ない	低い	低い	
部活の強さ	強い	低い		高い
	弱い	高い		低い
試合形式の練習	できる	低い		
	できない	高い		



話し合いの視点が整理されてきましたね。  
話し合いをするときは、必要性が高い・低い、貢献度が高い・低い、能力が高い・低いといった理由で議論をした方が、感情的な話し合い（かわいそう、好き嫌いなど）よりも、より説得的な話し合いになりますね。  
それでは、このような視点も踏まえて、話し合いを続けましょう。

〈話し合いを再開する〉



そろそろ体育館使用のルールはできたでしょうか。  
ルールができたグループは、全員が納得するルールができた証として、代表者が署名しましょう。  
みなさん、今回話し合って決めたルールは、守っていくことができますか？



もちろんです。  
自分たちで話し合って納得して決めたルールですから、きちんと守ります！

自主立法の確認をとおして、規範意識を高める効果を期待できます